初翻刻！　江戸幕府の事業継承……
家康と家光をつなぐ世襲の要、秀忠の事績！

【史料纂集古記録編　第227回配本】

東武実録（とうぶじつろく） 第2（全2冊・完結）

小池　進　校訂

【所収】寛永5年（1628）～寛永9年（1632）・解題

2026年7月　刊行予定

A5判上製・函入・320頁　定価17,600円（本体16,000円＋税）

ISBN978-4-8406-5227-8 C3321 ¥16000E

【既刊】　東武実録　第1　元和2年（1616）～寛永4年（1627）
312頁　定価17,600円（本体16,000円＋税）ISBN978-4-8406-5221-6　2024年11月刊

～『東武実録』とは～

江戸幕府が編纂した二代将軍徳川秀忠の事績録。全40巻17冊。
徳川家康が死去した元和2年（1616）正月朔日条から徳川秀忠が死去する寛永9年（1632）12月までを編年体で記載する。

旗本の松平忠冬が、天和3年（1683）12月に徳川綱吉の命を受け、翌年の貞享元年11月に浄書終了後、12月3日に献上された。忠冬は、『家忠日記』を残した家康の武将松平家忠の流れをくむ深溝松平の系統で、のちに『家忠日記増補追加』を献上したことでも知られる。

書名の「東武」は、武蔵国ないしは江戸の別称であるが、本書では江戸幕府を指す。記述は比較的簡略であるが、幕府の法令等同時代史料の原文を収録している点に特色がある。本書は、後年成立する幕府の正史『徳川実紀』でも、その中心的な典拠の一つになっている。

『東武実録』の献上本は現存しないが、写本は数多い。今回の翻刻にあたっては、国立公文書館の旧内閣文庫本を底本とし、詳細な校訂注（人名・地名）と標出（頭注）を施し利用の便宜を図った。
影印は、汲古書院より刊行された『内閣文庫所蔵史籍叢刊』に所収されている。

八木書店　〒101-0052　東京都千代田区神田小川町3-8　● Web　https://catalogue.books-yagi.co.jp/
● TEL　03-3291-2961［営業］-2969［編集］　● FAX　03-3291-6300　● E-mail　pub@books-yagi.o.jp